

予算額

3,503,476 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	4	団体		
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	0	0	3	1

トップアスリート総数	1	名		
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
			1	

アシスタントコーチ総数	1	名
-------------	---	---

指導種目	陸上(中・長距離)
------	-----------

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 学年別にグループ分けをするのではなく、走力がほぼ同じ選手同士を3グループに分け、距離・本数・タイム設定等を行う事で、競争意識を生みやすくし、それぞれの持つ自己ベストを伸ばしていくと同時に、『勝つ』ために必要な目標意識の改革を図る様に工夫した。
- ・ 当日の体調や目標タイム・大会等に合わせて、流動的にグループの選手を入れ替え、選手同士のモチベーションを維持する様に努めた。

◆成果と課題

[成果]

- ・ 12月、5000m沖縄県高校記録を更新(14分34秒→14分30秒)
これは、学校別及び一般成人との垣根を排除することで、各選手が向上心を持ち切磋琢磨することができ、7年ぶりに5000m沖縄県高校記録を更新した。
- ・ 1月、全国都道府県男子駅伝競走大会1区(7km)区間30位(47位中)と健闘。
- ・ 4選手が自己記録を更新。

[課題]

- ・ 今後は中学生や高校生へ指導を多く出来るよう、中・高等学校への周知を増やし、連携をとれるような仕組みを構築する。
- ・ 沖縄の夏の猛暑を考慮した練習計画を立て、体調管理まで行き届いた支援を行う。
- ・ 選手自身が目標達成可能な目標を設定させ、より多くの達成感を体験させる。
- ・ 初心者と経験者の差が大きい時の練習時間の無駄を極力少なくする。
- ・ 経験者から初心者への指導体験を通じ、指導者育成までのつながりを構築する。

地域課題解決に向けた取組

	取組の名称	わらびスポーツクラブ				
	趣旨・目的	児童の学校と地域連携 幼い頃からスポーツと身近に触れスポーツの面白さ、楽しさ等を学びながら実施する。				
	内容	マット運動、球技、コーディネーション、走り方教室、柔軟運動、バランス力を高める運動。				
	対象者	小学生	参加人数／回	17名	実施回数	16回
1	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 子供達が内容に飽きないように種目を増やし、こまめに変化をつける。 体力測定を行い、その結果を本人や保護者にフィードバックし体力の変化（伸び）を実感してもらう。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> マット運動において、前転、後転、側転が出来なかった子どもが、出来るようになり、本人の自信となり、学校の体育授業においてもお手本を見せるなど先生の目にとまるまでに成長している。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションを増やし、教室内容をフィードバックし保護者と連携を取りながら一緒に活動していきたい。 那覇市内の小学校体育館では、学校行事、地域のイベントなどで体育館が借用出来ない場合があるので、確実に定期利用できる施設借用が望まれている。 子どもと親以外にも、小学校や児童館・地域の関係団体への周知を増やし、地域全体での子ども達の支援ができるような連携を図る。今回は実施において時間が短かった。 				

	取組の名称	ママさんバレー教室				
	趣旨・目的	日頃の運動不足を解消でき健康増進につながる。またバレーに集まるママさん方の交流の輪が広がる。				
	内容	母親対象のバレーボール教室				
2	対象者	一般	参加人数／回	15名	実施回数	16回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 対人パスを行う際にどうしても仲良しな人とペアになりがちなところを、毎回違う人と行い、コミュニケーションもとりながら、チームワークが生まれる様な取組。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 初心者が多いチームだったが、トス、レシーブ、スパイク、サーブも練習を重ね、最近では、練習試合もできるぐらいに成長している。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 課題は大会出場である。現在のチームの状況では大会に出場するまでにはいならず、練習のみを行っているのが現状。今後は大会出場も視野に入れて取り組み、継続的な参加への新たな目標としたい。 				

	取組の名称	ウォーキング教室				
	趣旨・目的	健康増進、体力向上、世代間交流 日頃なかなか運動する機会のない方々にウォーキングを通して体を動かしていただき、運動の楽しさや心地よさ等を感じていただきたい。				
	内容	ウォーキング教室				
	対象者	一般	参加人数／回	15名	実施回数	16回
3	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングの効果を高める為にはフォームが一番大切である。フォームチェックには十分に気を配り修正を行って正しく歩けるように指導をした。自分自身で意識し、歩くことによって無理なく継続的な運動が期待できる。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 初めは、コースを1週(850m)することしか出来なかった方も、回を重ねるごとに長い距離3周(2550m)を歩けるようになった。正しいフォーム指導と受講生本人の根気強さによって、このような結果となった。 				
	課題	<p>ウォーキングは、誰でも手軽に実施できるということもあり、教室に参加するほどのことではないと思っているかたも多く、参加者を集めることに苦労した。今後は内容を理解していただき、多くの方に参加いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な実施日以外にも老若男女が参加できるイベント等も開催し、世代を超えた参加者による交流が図れるような企画を多く実施していきたい。 現在、屋外で実施しているため、雨天時は中止にする現状にある。補講日をつける、屋内の施設借用するなど教室実施にあたっての環境整備が必要になっている。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	1 校
---------	-----

コーディネーター総数	3 名
------------	-----

◆効果高めるための工夫や取組など

・ 出来ない技や新しい技を指導する際、一連の動きを数回に分け、少しずつ指導していくように心がけた。
・ 跳び箱においては、跳べない児童も多く、出来るだけ失敗した事よりもチャレンジしたことが良い事だという意識づけをするため、その都度声をかけやる気ができるよう励ました。特に出来ない子にはマンツーマンで指導することもあった。
・ 各種目において、良い動きをしている児童には模範演技をさせ、本人に自信をつけさせた。
・ お喋りが多い等、注意散漫な児童が多い授業では、他の児童の練習に支障がないよう担任と協力して、注意を払い指導を実施した。
・ お手本となる動きを見せて、良いイメージを持たせることを大切にした。
・ 出来るだけ児童の名前を覚え、名前と呼んでコミュニケーションを図るよう努めた。

◆成果と課題

〔成果〕

・ 跳び箱において、多くの児童が、初めよりも高い段や新しい技ができるようになった。
・ 消極的だった児童も授業を重ねていくごとに、運動する楽しさを知り、授業を積極的に参加するようになっていた。
・ 体育の授業を楽しみにする児童が多くなった。
・ 担任の先生より、負担軽減や、指導の参考になった等の言葉を頂いた。
・ 運動の苦手な児童に、しっかりと指導・補助に付き、けが人を出すことなく安全に指導することができた。

〔課題〕

・ どの段階まで指導するか、授業前に学校側の全体像が分かると指導しやすい。
・ 事前に児童に目標を認識させ、取り組むことができれば、各種目とも児童の結果が伸びた可能性があり、今後は、そのような時間を取れる様な流れを作る。
・ 担任の先生と打合せが上手くいかないこともあり、そのような時はどのような流れで授業を進行するか分からず戸惑うことがあったので、毎回の授業前または朝礼等に参加して、流れを把握する。
・ 指導に向かう際は運動場が使える状態だったが、突然の雨で運動場での体育が出来なくなり、急遽授業中止を余儀なくされ、体育活動コーディネーターを帰すことがあったので、このような時の対処を学校側と相談しておく必要あり、体育館での授業等への指導変更もできるように調整する。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

・ 地域住民と交流を持つことが出来、地域スポーツの活性化につながった。
・ 小学生から高齢者、一般人からトップアスリートまでの運動指導を行い、地域住民に運動する機会を多く作ることができた。

〔課題〕

・ 他の総合型地域スポーツクラブ等との連携を図る時間が無かった。今後は地域住民へのスポーツ振興のため、本事業での横のつながりをどのように活かし活動するかを検討しなければいけない。そのためにも、委員会等の設置も検討し、本事業の活動について県内実施団体の意見交換の場を設けるべきである。しかしながら、採択前にそのような予算計上をすることが出来ないため、どのように考えて実施まで持っていくかを考えなければいけない。
--